

いた
たい
いた

中野
劇団

いたい

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

板井

女

葎田 (むくろだ)

公園。女が板井と葎田と向かい合って座っている。板井、食事を取っている。女、呆然としている。

板井　ごめんな急に呼び出して。

女　あ、いえ。

板井　忙しいかったんちゃうん？

女
いえ……。

間。

女
あの、板井先輩……。

板井
びっくりしたやろ、俺から電話かかって来るなんて。だって電話とかしたことはないしさ。

葎田
そうなん？

板井
うん。かかって来るって思わなかったやろ？

女
ええ。

板井
俺って電話苦手やんか。何回もかけようかけようとしていやあ、緊張で、めっちゃドキドキしてなかなかかけられへんかって。だって俺から電話って絶対びっくりするやろなって——

女
だって板井先輩、先週死んだやないですか。
……。

女 びっくりするに決まってるやないですか。……先週、先輩のお通

夜行きました。

板井 (小刻みに頷き)。来てくれてんてね。ありがとうな。

女 ン？(あれ？ そんな軽い反応？) 鼻に白いのも詰めてましたよ。

板井 うん。

女 何で生きてるんですか？ みんな騙したんですか？

板井 いや、ちゃうねん。

女 ちゃうって何が？

板井 あのう、そやねん。あのう。

女 ほんなら何なんですか？ 幽霊とか言わないですよね？

板井 何で幽霊なんよ。

女 じゃあ何なんですか。

板井 だから死体死体死体。

女 死体？ 死体って。

板井 ……いやあの、死体っていうか、遺体遺体遺体。身元がわからん

女 場合が死体で、身元がわかっている場合は遺体やねん。だから遺体。先輩、火葬されてましたよ。……焼いて、骨も拾ったし、「これが

喉仏です」とかってやりましたよ？

板井 (周囲を気にして) ちょっと声大きいわ。

女 声大きいって(言い草はないでしょ)。死んだ人が目の前に現れるのに。声大きいって。何で火葬された人が目の前にいるんですか。それが俺もようわかってないんやけど、違う人なんちゃうかって話で。

板井 違う人って何ですか？

女 わからんねんけど。どっかで入れ替わったんちゃうかな。窯かどっかで。

板井 それやったら大問題になりますよね？

女 そうやねん、せやから何やるなって。窯に入れる時の勢いが強すぎて反対側からバンて出て来たんちゃうかって話で。

女 「話で」っていうのは誰の「話」なんですか？

板井

ごめんごめん、口癖口癖。

女

ほんならみんな違ふ人の骨を拾ったってことですか？

板井

そういうことやわな。

女

死んでるっていうのがわからないんですけど。

板井

うん。

女

死んでるのは死んでるんですか？

板井

死んでるのは死んでるねん。

女

何で死んでるのに動いてるんですか？

板井

何かコツがあつて。

女

コツ？ コツで動けるの？

板井

その辺が自分でもよう説明できへんねんけど。

女

はあ。

板井

でも、そんな変わらんで。死んでるってだけで。

葎田

せやな。

女

それは「生きてる」のとは違ふんですか？

板井 違うなあ。

葎田 違う違う。

板井 生体反応ないから。死体が、活動してるって感じ。

葎田 「活動」？

板井 「活動」はちやうか。

葎田 活じゃないわな。

板井 まあ死んでるっていうてもあんま変わらんけどな。別に神経が切れてるわけじゃないし。って言うても取り敢えず今のところはやけどね。これから腐敗とかも始まるやろうし。……で、さっき市役所行ってきてんけどさ。市役所の奴らってさ——
ちよちよちよちよちよ、待って待って。市役所？

板井 市役所。

女 市役所？

板井 うん。市役所。市の役所。(と言ったところで、「死の役所」と捉えられたかと思って)普通の市の役所。市役所。

女 市役所に何しに？

板井 手続き手続き。

女 何の？

板井 死亡届。

女 自分の死亡届を自分で出しに行ったんですか？

板井 そやねん。

女 市役所に行ったんですか？

板井 うん。

女 市役所に行ったんですか？

板井 うん。

女 え？ どんな感じやったんですか？

板井 めっちゃ綺麗になった。

女 じゃなくて先輩に対して。

板井 ああ……（そういう質問？）。いや、最初は気づかれてないから普

通やってんだけど、「遺族の方ですか」って聞かれたから「本人で

女 「す」って言うたら、ほんならちよつとザワってなって。

女 そらなりますよね？

板井

……ざわわってなって、で、3、4人役所の人が集まって来て、で、「受け取れへん」って言われて。

女

え？ それは「本人じゃ駄目なんですよ」とかって言われたってことですか？

板井

そそそそそそ。ハア？ってなるやん。

葎田

最悪やな。

女

……あの先輩、この方は？

葎田

あ、葎田です。

板井

知り合い、になったばかりやねん。死んでからの。

女

死んでからの？

葎田

で、どうなったん？

板井

ああ。「何で本人やったらあかんねん、本人はあかんって法律に書いてるんか」って言うたら「本人はあかんとは書いてないけど、

死亡届は手続対象者っていうのが決まってて、親族か、同居者か、家主か、みたいな感じで、その中に本人っていうのは含まれてないから駄目なんですよ」って言うから、「他の手続きは本人やないとかあかんとかいつも言うくせに何でこれだけ本人じゃあかんねん」って、ほんなら「決まりなんで」って。

女 え？ もしかして、死亡届受理されてないから、成仏できてないってことですか？

板井 何を言うてるん？

女 いえ。

板井 ……魂は成仏したよ。

女 え？ そうなんですか？ 魂は成仏してるんですか？ その状態

は。

板井 うん。成仏したよお。

女 あ、おめでとーございます？

板井 ありがとうございます。市役所でもめてる最中に。

女 最中に成仏したんですか？

板井 うん。

女 じゃあ、今、板井先輩の体を動かしたり喋ったりしてる存在は、これは何なんですか。死体を魂が動かしてるんじゃないんですか？
この世の全てのものには魂があるねん。虫とか草にも当然あるし、石ころみたいな「物」にもあるし。
はあ。

女 魂が成仏したら死体が残るやん。その死体も「物」やん。物には全て魂が宿る。

女 あ、じゃあ魂はあるんですか？ 成仏したのに魂があるってことですか？

板井 そそ。

女 何か全然わからないんですけど。板井先輩のご家族の方は、先輩がこうなってるってのは知ってるんですか。

板井 そら死んだことは知ってるよ。葬式もしたのに。

女 じゃなくて、死体としておるっていう……。

板井 ああ、それは言うてないねん。今現れたら変な空気になるやん。

女 そりや変な空気にはなりませんよ。

板井 しんみりするやん。

女 しんみりはしらないと思いますよ。

板井 で、昔の人やし。「何で成仏せえへんねん！」とか言いそうやん。「成

仏してるわ！」言うても。

女 ……成仏したのにおるっていうのがちよっと。

板井 で、本題やねんけど。

女 はい。何ですか頼みたいことって。

板井 処分してほしいものがあって。

女 処分？

板井 うん。

女 何ですか？

板井 DVD。

女 え？

板井 うん。

葎田 「積荷を燃やして」って奴。

女 いかかわしい奴ですか？

板井 いやいやいやいやそんな全然大したことないねんけど。うちの親、

目茶目茶硬派やから、ホンマあかんねん。

女 何で私なんですか？

板井 俺全然友達とかおらんかってさ。

女 はあ。

板井 いやあの、他に思い当たる人おらんかったっていうか。うん。

女 え？ そんなに親しかったってわけでもなかったですよ。何年

も会ってなかったし。

うん。……だから一方的に思ってたっていうか。

思ってた？

板井 まあ、ぶっちゃけたらね。わあ、何かぶっちゃけたなあ。

女 え？ 私を好きやったってことですか？

板井 そんなはつきりえええ？ ままままそう、そうかなうん。

葎田 (女に) どうなん？ こういう告白って。

女 どうって。いやあの。

葎田 「嬉しい」とか「複雑」とか。

女 (それです) 複雑です。……え？ その私に、いかわがしいDVD

を処分してくれって？ え？ 普通こういう感情を持った相手に

こそ知られたくないから処分してっていうならわかりますけど。

板井 そこは別にそんな。何とか頼めへんかな。一生の後のお願い。

女 そんな言葉聞いたことないですけど。あのう。

板井 はい？

女 こういうのってね例えば先輩が幽霊で、自分がやりたくても物に

触れへんから私に頼むっていうんやったらわかるんですけど。板

井先輩、実体があるんやから自分でできますよね。

板井 せやから親に顔見せられへんから。

女 それ別に私じゃなくても。

板井 頼むわ。

女 いやだつて。

葎田 (板井に聞こえないように) まっとうに成仏させたつてよ。

女 だから、私である必要ないですよね？

葎田 (板井に聞こえないように) あんたやないとあかんねんて。という

か、ほんまはDVDなんてどっちでもええというか……。

女 え？

葎田 なんやかんや理由つけて、最後に一度あんたに会いたかっただけ

やねんて。彼の最後の気持ち、汲んでもらえへんかな。

……。わかりました。(板井に) あの……、お引き受けしますから。

板井 え？ ほんまに？

女 はい。だから、安心してください。

板井 ありがとう……。

女 いえ……。

薙田

ほんまに、ありがとう……。

女

いえ。

薙田

……それでね、そのDVD、手に入れたら、処分する前にこの住所に送ってくれへんかな。(紙渡す)

女

え？ え？ なんですかこれ？

薙田

いやー、後輩にね、その「積荷を燃やして」のDVD貸す約束してたんやけど、貸す前に俺が死んでしまっただけな。ほんでうちはさ、奥さんが早々にそのDVD見つけちゃって処分しちゃってな。いやー、奥さんむっちゃ怒ってたわー。

女

……。

薙田

なかなか手に入らないプレミアものやねんな。いやいやいやいやそんないかがわしいとかは全然大したことないねんけど。で、その後輩も、「ほんまに持ってるとるんですかー？」って全然信じてなくてな。「ほな貸したるわー」っちゅう直前でね。いやー、悔やんでも悔やみきれ――

女 DVD欲しさにですよね。

薙田 え？

女 DVD欲しさに板井先輩と私を今うまいこと利用しましたよね。

薙田 いやいやいやいや……。

女 ……。先輩、やっぱり私……。

女は板井の方を振り返る。薙田と女の会話中に板井は後ろの方で成仏して安らかに死んでいる。

女 えー！ ちょっとやだこんなところで死なないでください。や

だー！

薙田 願いが、叶えられたからやな。

女 えー！ ちょっと、これ、この遺体、どうしたらいいんですか！

救急車とか呼んでも大丈夫なんですか？って、だめですよ？

えー！

薙田 俺の願いを聞いてくれたら、助けてやらんでもないで。

女

卑怯！ わかりました！ そのDVDをこの住所に送ったらいいいんですよね？ わかりました！ 送りますから、助けてください！

願いが叶えられて静かに死んでいく穂田。

女

……え？ あー！ そっか、しまったー！ 間違えたー！ えー、この遺体、どうしたらいいんですかー！ ちよっとー！ すみません誰か助けてくださいー！

終わり。